

## 2024 年 AIBA 認定貿易アドバイザー試験サンプル問題 (国際マーケティング)

### 第 1 問

昨今、社会課題を解決するビジネスが重要になってきている。社会課題解決に関する記述の【A】、【B】、【C】、【D】に入る組み合わせとして、適切なものを下記の選択肢から一つ選びなさい。

【A】とは、企業が社会の中で企業市民として活動し常に社会のステーク・ホルダーとの調和を図りながら、正常な経済活動のみならず社会的に影響を及ぼす企業活動全体に対して責任を果たすことである。

【B】とは、マイケル・ポーターが提唱した概念で、企業がステーク・ホルダーや消費者との共通価値創造により、社会的価値と経済的価値の両立を通して、高い収益性の実現を重視するものである。

SDG s は、2015 年 9 月に【C】で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された。

SDG s は持続可能な世界を実現するための 17 ゴール・169 のターゲットから構成され、【D】を誓っている。

### 選択肢

- 1 【A】 C S V 【B】 C S R 【C】 G 7 サミット 【D】 地球環境を守る
- 2 【A】 C S R 【B】 C S V 【C】 G 7 サミット 【D】 地球上の誰一人取り残さない
- 3 【A】 C S V 【B】 C S R 【C】 国連サミット 【D】 地球環境を守る
- 4 【A】 C S R 【B】 C S V 【C】 国連サミット 【D】 地球上の誰一人取り残さない

### 第 2 問

経営ビジョンとは、企業のトップによって明示された自社の望ましい未来像です。経営ビジョンに関する記述の組み合わせとして、適切なものを下記の選択肢から一つ選びなさい。

- a 経営ビジョンは、自社の従業員だけに向けて策定されるものなので、自社だけで通じる言葉を盛り込んでも良い。
- b 経営ビジョンを策定し、それが組織内で浸透すれば従業員の判断のベースとなる。
- c 経営ビジョンの策定にあたって、昨今の経営環境を鑑み、社会的責任に関する記述を必ず盛り込む必要がある。
- d 経営ビジョンは、将来の会社の姿がイメージできるわかりやすい表現が良い。

## 選択肢

- 1 a と b
- 2 a と d
- 3 b と c
- 4 b と d

## 第3問

企業の方向性を決めるためには、現実を正しく認識することが必要です。環境分析を行うには、もれなくダブリなく分析を行うことが重要で、そのためのツールとしてフレームワークを利用します。そのフレームワークに関する記述として、適切なものを下記から一つ選びなさい。

- 1 PEST 分析は、組織の外部環境を捉えるための方法である。これは、政治的環境、企業文化環境、社会的環境、技術的環境という4つの側面から外部環境を把握することを支援する。
- 2 SWOT 分析は、組織の内部環境の把握に限定した方法であるが、自社の強みと弱み、機会と脅威の要素を整理するために、有効である。
- 3 戦略分析の3Cは、マーケティング環境を分析するための枠組みであり、顧客、自社、競合に着眼して分析を行う。
- 4 VRIO 分析によると経営資源について、経済的価値が認められるか、希少性が高いか、模倣が困難であるか、その経営資源を活用できる組織能力があるか、という条件のうち、一つでも満たされていれば、持続的競争優位に資する経営資源と判断される。

## 第4問

企業が事業拡大を検討する際に活用する手法として、アンゾフの製品×市場マトリックスがあります。これは、製品と市場の二つの軸で、戦略を検討するものです。新製品を新規市場に投入する戦略は、多角化戦略と呼ばれています。この多角化戦略の記述として、不適切なものを下記から一つ選びなさい。

- 1 多角化戦略の展開によって、リスクを分散することが出来る。
- 2 既存事業に特有な高度なスキルを保有した従業員が多く存在する場合、これを有効活用して多角化することは容易である。
- 3 複数の事業間での経営資源の共有・補完による相乗効果を得るためには、多角化による新事業展開が有効で、関連多角化と呼ばれる。
- 4 企業の外部環境の変化を受けて、新しい事業分野を認識し成長を果たすために、多角化戦略を採る。

#### 第5問

マイケル・ポーターは、業界の収益性や自社の収益性に影響を与える5つの競争要因（5フォースモデル）を提唱している。この5つの競争要因に関する記述として、適切なものを下記から一つ選びなさい。

- 1 業界内に圧倒的な競争地位を持つ企業が存在する場合、同業他社は競争地位を向上させるため多大な企業努力が必要となり、業界内の競争は激しくなる。
- 2 参入障壁とは新規参入者に対する既存企業の優位性である。顧客スイッチング・コストが高い場合は、有効な参入障壁となる。
- 3 既存製品より性能に優れている代替品の登場は、既存製品を即座に市場から退出させることになる。
- 4 供給企業の数が多い場合には、売手の交渉力が強くなり、業界企業にとっては脅威となる。

#### 第6問

生産財の購買行動は、消費財の購買行動と比較して、いくつかの相違点がある。生産財の購買行動に関する記述として、適切なものを下記から一つ選びなさい。

- 1 生産財の購買プロセスは、多くの人物が関わり、複雑であるので、企業内に一般的手続きは存在しないことが多い。
- 2 生産財の購買を担当する担当部門が、高い専門性を有するので、消費財と比べて、生産財を担当するセールスパーソンには、高い専門性を必要とされることはない。
- 3 生産財の需要の価格弾力性は低く、短期的には、価格変化の影響を受けない傾向にある。
- 4 生産財の取引は、合理的な意思決定が行われるので、取引先と密接なリレーションシップを築く必要はない。

#### 第7問

製品のライフサイクルに関する記述として、適切なものを下記から一つ選びなさい。

- 1 ジェフリー・ムーアはアーリー・アダプターとアーリー・マジョリティの間には、容易に越えがたい「死の谷」があると提唱している。
- 2 ライフサイクル・エクステンションとは、品質・特徴・スタイルなどによる製品の有用性・安全性・利便性の拡大によって、製品寿命を伸ばし、ロングセラー化を実現しようとする取り組みのことである。

- 3 製品ライフサイクル成長段階においては、コスト・プラス方式で価格を決め、選択的流通チャネルを採用するのが一般的である。
- 4 製品ライフサイクルの成熟段階においては、市場ニーズが画一化され、市場の寡占化が進むので、新たな企業が参入する余地は全くない。

#### 第8問

消費者から支持を得たブランドをどのように管理し、成長させるかは企業の命運を左右する重大な課題である。下記のブランド戦略に関する記述の【A】、【B】、【C】、【D】に入る語句の組み合わせとして、適切なものを下記の選択肢から一つ選びなさい。

同じブランド名を用いて、同じカテゴリーに形、色、サイズなどを変えた製品を導入する【A】戦略や、同じブランド名を用いて、異なるカテゴリーの新製品を導入する【B】戦略がある。同一ブランドでは、更なる市場拡大が難しいと判断される場合には、同じカテゴリーの製品に新ブランドを展開する【C】戦略を採用する。新しい製品カテゴリーの製品を導入する場合に、既存のブランド名がいずれもふさわしくない場合には、【D】戦略が検討される。

#### 選択肢

- 1 【A】ブランド拡張 【B】ライン拡張 【C】マルチブランド 【D】新ブランド
- 2 【A】ライン拡張 【B】ブランド拡張 【C】新ブランド 【D】マルチブランド
- 3 【A】ブランド拡張 【B】ライン拡張 【C】新ブランド 【D】マルチブランド
- 4 【A】ライン拡張 【B】ブランド拡張 【C】マルチブランド 【D】新ブランド

#### 第9問

価格設定戦略には様々なものがある。下記の価格設定戦略の【A】【B】【C】【D】の名称として適切な組み合わせを下記の選択肢から一つ選びなさい。

- 【A】 基本となる製品と付属的な製品がある場合、基本となる製品の価格を安く設定し、付属する製品の価格を相対的に高く設定する方法
- 【B】 定額料金による価格設定。所有ではなく、利用に対して金銭が支払われる方法
- 【C】 時価を表し、時期やタイミングに合わせて価格を動的に変化させる価格設定方法
- 【D】 基本バージョンを無料で提供しながら、高性能バージョンを有料で購入してもらう方法

#### 選択肢

- 1 【A】価格バンドリング 【B】フリーミアム

- |   |                   |               |
|---|-------------------|---------------|
|   | 【C】 ダイナミック・プライシング | 【D】 サブスクリプション |
| 2 | 【A】 キャプティブ価格      | 【B】 サブスクリプション |
|   | 【C】 ダイナミック・プライシング | 【D】 フリーミアム    |
| 3 | 【A】 価格バンドリング      | 【B】 サブスクリプション |
|   | 【C】 慣習価格          | 【D】 フリーミアム    |
| 4 | 【A】 キャプティブ価格      | 【B】 フリーミアム    |
|   | 【C】 慣習価格          | 【D】 サブスクリプション |

#### 第10問

海外に進出する場合、即効性、コスト削減、シナジー効果等を期待して M&A を活用することがある。M&A の目的を実現し効果を最大化する上で、M&A 成立はスタートラインに過ぎず、その統合後の統合作業 (PMI) を適切に行うことが重要です。令和4年3月に中小企業庁が策定した「中小 PMI ガイドライン」に関する【A】【B】【C】の記述に関する正誤の組み合わせとして、適切なものを下記の選択肢から一つ選びなさい。

- 【A】 PMI の主な構成要素は、「経営統合」、「信頼関係構築」、「業務統合」である。
- 【B】 PMI は、M & A 成立後に開始すれば十分で、概ね1年の集中実施期間を経て、それ以降も継続的に実施することが重要である。
- 【C】 PMI は、通常業務に加えて実施することになるので、人員状況を踏まえて、適切な役割分担で推進体制を構築することが重要である。

#### 選択肢

- |   |       |       |       |
|---|-------|-------|-------|
| 1 | 【A】：正 | 【B】：正 | 【C】：誤 |
| 2 | 【A】：正 | 【B】：誤 | 【C】：誤 |
| 3 | 【A】：正 | 【B】：誤 | 【C】：正 |
| 4 | 【A】：誤 | 【B】：正 | 【C】：正 |

第11問 自由貿易体制に関する以下の問1～問4について、それぞれの指示に従って解答の番号を解答用紙に記入しなさい。

問1 通商白書 2024 において、「全ての国にとって、ルールベースで自由な貿易秩序は経済発展の基盤。WTO の改革は引き続き喫緊の課題」と記載されている。これは、WTO の持っている3つの機能すべてにおいて改革が必要だが、特に一つの機能は2019年以降実質停止している状態に陥っており、2024年内に完全なかつよく機能する制度の実現を目指している。この停止している機能とは何か、適切なものを下記から一つ選びなさい。

- 1 既存の貿易ルールの強化機能
- 2 新しい分野のルール策定機能
- 3 紛争解決機能
- 4 諸協定の統一的運用監視機能

問2 2001年にWTO設立後初となるラウンド交渉が立ち上げられ、農林水産物や鉱工業品の貿易のみならず、サービス貿易の自由化に加え、アンチ・ダンピングなどの貿易ルール、貿易と環境、開発のほか、ルール作りを検討すべき分野として投資、競争、貿易円滑化なども8分野の交渉が進められたが、先進国と新興国との対立により交渉は膠着化・長期化した。最終的に第10回WTO閣僚会議(MC10)において、部分合意を積み上げる「新たなアプローチ」が必要であるとの考えと、交渉を継続すべきとの考えの両論が併記され、時代に即した新たな課題への取組を求める国があることも明記された。この「WTO設立後初となるラウンド交渉」は一般的に何と呼ばれているか、適切なものを下記から一つ選びなさい。

- 1 ウルグアイ・ラウンド
- 2 ドーハ・ラウンド
- 3 ジュネーブ・ラウンド
- 4 カタール・ラウンド

問3 日本は、2024年3月現在50カ国との間で21の経済連携協定を署名・発効済みだが、2022年1月に発効したものは何か、適切なものを下記から一つ選びなさい。

- 1 日EU・EPA
- 2 日米貿易協定
- 3 日英EPA
- 4 RCEP

問4 2024年5月10日参議院本会議において可決・成立した「重要経済安保情報の保護及び活用に関する法律」における、政府が保有する安全保障上重要な情報として指定された情報(CI)にアクセスする必要がある者に対し、その者の信頼性を調査・確認した上でアクセスを認める制度の名称は何か、適切なものを下記から一つ選びなさい。

- 1 セキュリティ・コミットメント制度
- 2 セキュリティ・クリアランス制度
- 3 セキュリティ・プレッジ制度
- 4 セキュリティ・アシュアランス制度

第 12 問

国際法務に関する以下の問題について、その指示に従って解答の番号を解答用紙に記入しなさい。

問 1 外国企業とのクレームなどの紛争を解決する方法として仲裁があるが、仲裁条項の承認並びに外国仲裁判断の承認及び執行に関する基準を、加盟国間において統一することを目的とする条約で「外国仲裁判断の承認及び執行に関する条約」がある。これは一般的に何条約と呼ばれているか、適切なものを下記から一つ選びなさい。

- 1 ワシントン条約
- 2 ニューヨーク条約
- 3 シカゴ条約
- 4 ボストン条約

<解答>

第1問 4

第2問 4

第3問 3

第4問 2

第5問 2

第6問 3

第7問 2

第8問 4

第9問 2

第10問 3

第11問 問1 3

問2 2

問3 4

問4 2

第12問 2